



変わり兜展3 — 新収蔵の変わり兜と甲冑紹介 —

平成24年4月3日(火)～6月10日(日)

部門別展示室(2)黒田記念室



4、六十二間星兜・紺糸威二枚胸具足

はじめに

五月の節句を飾る武者人形の兜や甲冑は、日本の武士の勇ましさをシンボルとして、現在の私たちの意識や文化の中に残されています。武者人形は、平安時代末の甲冑がモデルですが、実際の兜や甲冑は、以後江戸時代の終わりまで作成技術が様々に改良され、デザインも変わっていきました。それらを見ていくことで、日本の歴史や文化を知ることができるでしょう。

展示では、おもに平成十三年以降、ほぼ十年間で新たに本館が収蔵した、福岡藩主や家臣の資料などから、デザインの奇抜な変わり兜や、甲冑などを展示し、桃山時代の終わりから江戸時代の武家の歴史と文化を紹介します。

(1) 星兜と筋兜の変わり兜

五月人形の兜でおなじみの星兜は、平安時代の末頃に出現したものです。当時の兜の鉢は、ほそい鉄板を十数枚つなぎ合わせて半球形を作りますが、それを止める鉾が見えるので、星兜と呼ばれました。時代が下がると鉾の部分を打ちつぶして筋のようにする筋兜となりました。また鉄板も、ほそいものをつぎ合わせて枚数を増やすと、重なり(継ぎ)部分が二重になり、防御力が増すため、戦乱が激しくなる戦国時代には六十二間などの兜が出現しました。太平の世となった江戸時代には、戦国時代の終わりに出現した当世兜よりも、伝統の復古調として好まれ、引き続きつくられました。

(2) 当世兜①頭形兜と桃形兜

戦乱の続く室町時代中頃以降の戦国時代には、何枚かの曲がりのついた鉄板を貼り合わせ、簡単につくれてしかも防御

力のある当世兜が主流と成りました。多くつくられたのは頭の形に合わせた頭形兜です。鉄板の貼り合わせかたの違いなどで種類があります。また桃形兜は文字通り桃の形に鉄板を貼り合わせますが、当時日本に紹介された南蛮の兜などの影響もあります。その左右のカーブで敵の打撃力をそらせる利点もあり、初代福岡藩主黒田長政の大水牛脇立桃形兜が有名です。また一代藩主長瀬も先祖にあやかるため大水牛の桃形兜をつくりました。



9、鉄錆地頭形兜・紺糸威七枚胸具足



6、黒漆塗頭形兜(前立を取ったところ)

(3) 当世兜②烏帽子形兜と突盃

当世兜のなかで、もう一つの主流は、兜の形自体を、鉄板を貼り合わせる際に、おもしろい形に変えて作るものです。流行したものは武士のかぶり物だった烏帽子（えぼし）などの形にさせた烏帽子形兜があります。また鉄板でつくれない場合は、和紙などで烏帽子の形を作り漆で固め、頭形兜にかぶせる張懸の方法もありました。当世兜では先のとがった形も好まれ突盃（とっぱい）と呼ばれ、椎の実などの木の実や、円錐、角錐などの図形的なものなど様々です。いずれも兜の上の部分は空間が空いており、兜の中には頭を保護する厚い布が張られています。

(4) 描かれた変わり兜と武将・武士像

変わり兜のデザインは、戦国時代に生きた武将や武士の強い個性を表すものといわれますが、本館に残された武士の肖像画にも、変わり兜を着用していた姿や、愛用品やゆかりの品として、変わり兜が描かれています。

福岡藩の初期の重臣として有名な黒田二十四騎のうち、菅和泉守正利は、巻貝の変わり兜で描かれています。また鹿角前立ての頭形兜も伝わっていました。同じく二十四騎の一人野口一成は、頭形に朱塗りの脇立兜の姿が有名です。島原の乱に参陣した大音宗閑は、功績で二代藩主黒田忠之から拝領した兜を背にした肖像画が描かれています。

(又野誠)



11、黒漆塗烏帽子形兜・緑革糸威胴丸具足

出品資料一覧

- 1、鏡形前立十二間星兜・赤絨威鎧（複製） 一領
昭和一五（一九四〇）年 藤波天波作
 - 2、六十二間星兜紺糸威二枚胴具足 一領
江戶時代、鉢高一六、七 胴高三九、五
 - 3、魁前立六十二間星兜紺糸丸胴具足 一領
江戶時代、鉢高一五、六 胴高四〇、四
 - 4、魁前立六十二間星兜紺糸威二枚胴具足 一領
江戶時代、鉢高一七、〇 胴高三九、〇
 - 5、鉄錆地十六間筋兜 一頭
江戶時代、鉢高二〇、一 胴高四四、七
 - 6、黒漆塗頭形兜 一頭
江戶時代、鉢高二八、九 胴高四三、五
 - 7、黒漆塗日根野頭形兜 一頭
江戶時代、鉢高三〇、五 胴高三七、〇
 - 8、黒漆塗桃形兜・桶側二枚胴具足 一領
江戶時代、鉢高二、四 胴高三七、〇
 - 9、鉄錆地頭形兜・紺糸威七枚胴具足 一領
江戶時代、鉢高一八、二 胴高三七、五
 - 10、橋前立茶漆塗烏帽子形兜・茶漆塗紺糸威丸胴具足 一領
江戶時代、鉢高三六、四 胴高四〇、六
 - 11、黒漆塗烏帽子形兜・緑革糸威丸胴具足 一領
江戶時代、鉢高三六、〇 胴高四〇、五
 - 12、六角錘突盃形兜・黒糸威丸胴具足 一領
江戶時代、鉢高二七、〇 胴高三二、五
 - 13、黒漆塗椎突形兜・紺糸威桶側二枚胴具足 一領
江戶時代、鉢高二〇、五 胴高四六、二
 - 14、菅和泉守正利肖像 一幅
江戶時代、尾形洞霄画
縦一〇五、五 横三六、七
 - 15、黒漆塗鹿角脇立頭形兜 一頭
桃山時代 鉢高一九、五
 - 16、野口一成肖像 一幅
寛政五（一七九三）年 亀井南冥賛
縦一〇一、三 横四一、四
 - 17、朱漆塗刎半月脇立頭形兜・紺糸威丸胴具足一領
桃山〜江戶時代 鉢高一七、五
 - 18、宗閑居士（大音重次）像 一幅
江戶時代前期 縦一〇一、三 横四一、四
 - 19、黒漆塗宝剣前立烏帽子形兜 一頭
江戶時代前期、鉢高四一、五
 - 20、黒田長政像 一幅
文政元（一八一八）年 縦一〇一、三
 - 21、黒漆塗大水牛脇立桃形兜・紺糸威丸胴具足一領
江戶時代、鉢高三二、四 黒田長博所用
 - 22、懷宝甲冑速用便覧 一冊
江戶時代 北条鱗斎編 縦八、五 横一八、〇
具足着方手順乃歌
 - 23、嘉永六（一八五三）年 国宝堂十册著
折本 縦一六、五 横五、八
- 資料・作品保護のため、期間中一部展示替えをします。なお展示資料はすべて本館収蔵資料。
- （ご協力いただいた方々 順不同、敬称略）
清沢又四郎、武部目一、寺澤晃造、星野宜義、藤田和生、周防憲男、大音繁太、加藤正秀、大神茂弘、中村英司、菅享
- （参考文献）笹間良彦『図録日本の甲冑武具事典』（一九八一年 柏書房）、福岡市博物館所蔵黒田家の甲冑と刀剣（一九九四年 福岡市博物館）など。

福岡市博物館 千八一四一〇〇〇一
福岡市早良区百道浜三丁目一番一号
☎〇九二・八四五・五〇一一